

## プロジェクト 安全・安心の「青森りんご」輸出基盤の強化

### 目標

・国産りんご輸出額（年産） R4：206億円 → R10：220億円

### 挑戦する内容

- ・台湾向け輸出リスク低減に向けた選果技術の実用化
- ・放任園対策の強化
- ・台湾行政機関等との信頼関係の強化
- ・輸出先の検疫条件に対応した産地体制の強化

### 関係者の声 =対話

- ・夏場の猛暑で病害虫の発生が多くなっており、機械選別技術の開発により輸出不合格リスクの低減が望まれる（出荷業者）
- ・モモシンクイガ等病害虫の発生源となっている放任園の解消が必要（農協）
- ・隣接する放任園の伐採等処理を要望（生産者）
- ・適期前に収穫され台湾に輸出されたトキにビターピットが発生するなど品質が低下（台湾実需者）

### 役割分担

- ・市町村・農協 : 放任園の実態把握、情報提供、現地指導
- ・選果機メーカー : 機械選別技術実用化
- ・産技センター : 交信攪乱剤の普及拡大に向けた協力、機械選別技術実用化への協力
- ・県 : 検討会開催、台湾側との情報交換、情報発信、現地指導

### 変革後の姿

- ・放任園の解消や交信攪乱剤の普及により、モモシンクイガ等病害虫の発生密度が低下
- ・輸出先における「青森りんご」の信頼確保

## 令和8年度計画

### 挑戦する内容

- 1 台湾向け輸出リスク低減に向けた選果技術の実用化
  - ・モモシンクイガ被害果の機械選別技術の実用化に向けた支援
- 2 放任園対策の強化
  - ・放任園対策に係る検討会の開催及び専門家の派遣
  - ・市町村の行う放任園発生防止・解消対策の支援
- 3 台湾行政機関等との信頼関係の強化
  - ・台湾行政機関や台湾青森りんごの会との意見交換
  - ・トキ等黄色品種の早もぎ防止及び適期収穫に向けた生産流通販売対策会議の開催
- 4 輸出先の検疫条件に対応した産地体制の強化
  - ・検疫制度説明会や研修会の開催
  - ・登録選果こん包施設の巡回指導
  - ・交信攪乱剤コンフューザーRの更なる普及推進  
【重点エリア（農林水産事務所別ミッション）】中南地域



台湾査察の状況

### 対話

- ・放任園の対策検討会の際に、市町村や農協等も参加し、放任園解消の優良事例等について、情報収集・意見交換（5月、7月、9月）
- ・台湾向けりんご選果こん包施設を巡回し、モモシンクイガ被害果除去の徹底や輸出に向けた意見交換（6月、7月、10月）
- ・部会を開催し、事業の進捗状況を把握するとともに、意見を参考に事業構築（7月、1月）
- ・選果機メーカー、産技センター、大学等と、機械選別技術の実用化について情報交換（8月、11月、2月）
- ・生産流通販売対策会議におけるトキ等黄色品種の早もぎ防止に向けた意見交換（9月）